

図画工作科学習指導案

令和6年6月13日(木) 学習指導Ⅱ 第4学年2組(第1図工室) 指導者 貞永 瞳

【題材】顔を出したら(工作に表す)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	- 穴の大きさや位置、数などの穴の開け方と周りの構成や配色などの周りの表し方から形や色の感じが分かる力(共(1)ア) - 自分の表したいことに合わせて、穴の開け方や周りの表し方を工夫する力(A(2)イ)	- 自分なりのイメージや思いを基に穴の開け方や周りの表し方の工夫について考える力(A(1)イ) - 顔を出して感じたことや想像したことを基に、自分のイメージや思いをもち、自分の表したいことを見付ける力(共(1)イ)	穴から顔を出したり友達が顔を出す様子を見たりし、イメージや思いを広げることと、パネルと顔が合わさって完成する作品の、よさや面白さを楽しむ態度
子どもの実態	- 自分の表したいことに合わせて、形や色、材料の加工や組合せを工夫しながら表すことができる。 - これまでに自分の体より大きい材料を扱って製作した経験がないため、等身大の紙を扱う際の構成や配色などによる、形や色の感じに気付いていない。	- 絵に表す題材では、物語で印象に残った場面からイメージや思いを広げ、自分の表したいことを見付けられる。 - 自分の表したいことを表す構成や配色などを決める際に、合理的に進めようとするため、様々な方法を試しながら考えることが難しい。	- 自分の思いを形や色などで表したり友達の活動や作品を見たりすることを楽しめる。 - 形や色で表す活動や作品と生活とが結び付かず、自分の活動や作品が周囲の人を笑顔にしたり、生活を楽しくしたりできると気付いていない。
価値	- 本題材は、等身大の段ボールに楕円形の穴を開け、穴の周りを装飾して、顔を出して楽しむパネルをつくる題材である。顔出しパネルは観光地などで見られ、地域の人物や物がかかれたパネルに開いた穴から、自分の顔や手などを出すものである。顔や手などを出す際には、角度や表情を変えることで、かかれた人物や物の様子が変わって見えるため、自分なりの表情やポーズを合わせたり、かかれた人物や物になりきったりして楽しめる。パネルを客観的に見る人は即時的に、自分自身も撮影した写真を見ることで楽しむことができる。また、SNSに投稿して話題にするなど、顔出しパネルから顔や手などを出す行為やその姿を記録した写真は、コミュニケーションのきっかけになるため人を引き付ける魅力があると考えられる。題材の終末には、体育館に製作した顔出しパネルを展示し、他学年の子どもに向けた展覧会を開催する。たくさんの子どもの角度や表情を変えながら顔を出すことにより、自分がつくったパネルの様々なよさや面白さを感じられる。そして異学年の交流の中で、パネルから顔を出す子どもを見ると、自然と笑顔が生まれる。さらに、顔出しパネルはパネルと顔を出す人との距離が近く、顔を出した姿を客観的に見るのが難しい。そのため、顔を出した姿を他者に見てもらったり、他者に顔を出してもらったりする必要がある。友達と、互いのパネルを試しながら、表現と鑑賞を何度も往還することで、自分なりの楽しい顔出しパネルをつくれる。 - 等身大の段ボールに絵をかくことは、作品を見る位置や角度を変えながら、穴の開け方や周りの構成や配色など、全体の様子を見る必要があるため、構成や配色などによる形や色の感じが分かる。	パネルと顔が合わさって完成する作品は、顔の角度や表情を変化させても楽しめる穴の開け方や周りの表し方を考える必要があるため、自分のイメージや思いに合う方法を繰り返し試しながら考えられる。	穴から顔を出したり友達が顔を出す様子を見たりすることは、パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さを感じられるため、活動や作品と生活との結び付きを実感できる。
見方・考え方	顔出しパネルを、穴の大きさや位置、数と、周りの構成や配色の視点で捉え、自分のイメージや思いをもちながら、楽しい作品をつくること。		
今後の学習	5年「板を切りぬいて(立体に表す)」で、板を切り抜く構成や配色などを工夫して、モビールを製作する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	自分のイメージや思いを基に表したいことを見付け、穴の大きさや位置、数などの穴の開け方と、穴の周りの構成や配色などの周りの表し方を工夫することで形や色の感じが分かり、パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さを楽しめる。			
評価 基準	(①知・技) 自分の表したいことを基に、穴の大きさや位置、数などの穴の開け方と周りの構成や配色などの周りの表し方を工夫する中で、形や色の感じが分かる。 (②思・判・表) 顔を出して感じたことや想像したことから自分の表したいことを見付け、自分なりのイメージや思いを基に、穴の大きさや位置、数などの穴の開け方と周りの構成や配色などの周りの表し方の工夫を考えている。 (③主体的態度) 穴から顔を出したり友達が顔を出す様子を見たりし、パネルと顔が合わさって完成する作品の、よさや面白さを楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	2	○穴を開けた段ボールから顔を出したり、穴の周りにペンで絵をかいたりし、穴から顔を出して楽しむ作品をつくるという見通しをもつ。 学習のめあて 穴の開け方や周りの表し方を工夫して顔を出した人や見た人が楽しめる、顔出しパネルをつくろう	○同じ机で活動する子ども同士で顔を出したり、穴の周りにペンで絵をかいたり、互いに見合ったりできるように、机に2枚、穴の大きさや位置、数が異なる段ボールと、1セットのカラーペンを用意する。	◇穴から顔を出したり友達が顔を出す様子を見たりし、穴の周りにペンで絵をかきながらイメージや思いを広げる活動を楽しむ発言をしている。 ＜発言③＞
あらわす・ひろげる	1 2 4	○前時に試した段ボールを見たり、アイデアスケッチをかいたりしながら、自分の表したいことを考える。 ○自分の表したいことやアイデアスケッチを基に、等身大の段ボールに下がきをする。 ○下がきを基に、穴を開けたり穴の周りを着色をしたりする。(本時3／4時間目)	○自分なりのイメージや思いを基に自分の表したいことを考えられるように、前時に試した段ボールを提示しておき、自由に見たり顔を出したりできる環境を設定する。 ○穴の開け方と周りの表し方による感じ方の違いを試しながら表現できるように、工作用紙や画用紙を十分に用意する。 ○周りの構成や配色に合わせて効果的に用具を使い分けられるように、絵の具、スポンジローラー、刷毛を教室の中央に用意し、カッターと段ボールカッターを各机に配付する。	◇自分なりのイメージや思いを基に自分の表したいことを考え、アイデアスケッチに表している。 ＜アイデアスケッチ②＞ ◇穴の開け方や周りの表し方の工夫を考えながら下がきをしている。 ＜作品②＞ ◇穴の開け方や周りの表し方を工夫し、形や色の感じについて記述している。 ＜作品・記述①＞
ふりかえる	1 課外	○互いのパネルを見合い、友達のパネルから顔を出したり、顔を出している友達の様子を見たりして、パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さを伝え合う。 ○他学年の子どもに向けた、顔出しパネルの展覧会を行う。	○穴の開け方や周りの表し方による、よさや面白さに気付けるように、作品から顔を出した様子を写真撮影しながら鑑賞する機会を設定する。	◇パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さについて記述している。＜記述③＞

本時の学習（8／10時間目）

ねらい 作品の完成に向けて穴を開けたり着色をしたりする活動を通して、自分の表したいことを表すための穴の開け方や周りの表し方を工夫するとともに、穴の大きさや位置、数と、周りの構成や配色による、形や色の感じが分かる。

評価項目 穴の開け方や周りの表し方を工夫し、形や色の感じについて記述している。

<作品・記述①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 色は全部塗り終えて、前は穴の大きさを広げたのだったな。顔がしっかりと出せるようになって、宇宙飛行士のポーズと出す顔の表情を合わせて楽しむことができたな。 ・塗り残しなど細かいところを仕上げて、完成させるぞ。（目的意識）	○自分の表したいことに向けて、取り入れた穴の開け方や周りの表し方の工夫を自覚できるように、これまでの学習の振り返りを見るよう促す。 ○本時で行う活動の見通しがもてるように、前時までに行った穴の開け方や周りの表し方の工夫と、自分の表したいことを実現するために不足している表現の工夫について問いかける。
めあて：パネルから顔を出した様子を見ながら、穴の開け方や周りの表し方を工夫して、完成に近付けよう	
2 様々な材料を用いて、顔出しパネルをつくる。 - 遠くから見ても前回広げた穴の周りの塗り残しが気になるな。他のところも確認をしながら、細かいところを塗ってきれいにしていこう。 - 塗り残しもなくなったし、これで完成だ。私と同じ宇宙飛行士をテーマにしている友達は、2人の人の顔に穴を開けて、高さも変えていて、工夫しているな。面白そうだから、顔を出させてもらおう。 - 友達と一緒に顔を出したら、一人で顔を出す時よりも楽しい気持ちになったよ。写真を見ても、自然な笑顔と宇宙飛行士のポーズが合っているいい感じ。私のパネルは穴が1つだけど、楽しんでもらえるかな。 - 友達がパネルを試してくれたよ。撮影した写真を見て、「斜めに開いた穴に合わせて顔も傾けるから、いつも以上に明るい表情になった」や、「パネルにかかれた宇宙飛行士のポーズと斜めに傾いた顔が合わさるのが面白い」と言ってもらえたぞ。穴の数の工夫もよいけれど、私がやった穴の角度の工夫も、友達に楽しんでもらえるのだな。 - 穴はなんとなく斜めに開けていたけれど、顔の角度や表情を変えるポイントになると気付いたよ。もっとこだわってみようかな。 ・塗り残しなど細かいところの仕上げができてきれいになったぞ。これで完成だと思ったけれど、まだ工夫ができそうだな。（目的を達成した意識）	○作品の完成に向けて、課題を基に本時の具体的な活動を想起できるように、友達が顔を出した作品を離れて見たり、自分が顔を出した際に記録した静止画を見たりするよう促し、自分の表したいことと比較して感じたことを問いかける。 ○他者が取り入れている穴の開け方や周りの表し方の工夫への関心を高められるように、穴の大きさや位置、数や、周りの構成や配色を試したり調節したりしている子どもを称賛する。 ○自分の表したいことに向けて、友達の活動や作品を参考に、穴の開け方や周りの表し方の工夫に気付けるように、新たな穴の開け方や周りの表し方の工夫を取り入れている子どもの活動や作品を称賛するとともに、記録した静止画をタブレットに送り、工夫による感じ方を問いかける。 ○新たな穴の開け方や周りの表し方の工夫と、それによって感じるイメージと作品のよさや面白さなどに気付けるように、友達の作品から顔を出している子どもに、自分が取り入れた工夫と友達が取り入れた工夫とを比較するよう促し、気付いたことを問いかける。 ○自分の活動や作品を客観的に捉え、パネルと顔が合わさって作品が完成した時のよさや面白さを自覚できるように、これまでに表現できたことや深まったイメージや思い、友達が顔を出す様子を見て感じたことについて問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 - 友達が私のパネルを試して「面白い」と言ってくれたから、穴の角度によって顔の角度や表情が変わって、より楽しい感じになるとわかったよ。 - 次回は、出す顔の角度をもう少し急にするために、パネル自体の底辺に角度がつくように切って、より楽しい感じのパネルを完成させたいな。	○本時に取り入れた工夫や分かった形や色の感じを自覚できるように、「本時の学習を通してできたことや気付いたこと」と「作品の静止画」を振り返りにまとめるよう促す。 ○本時の取組を基に次時への見通しをもてるように、振り返りに「次時に取り組みたいこと」を記入するよう促し、不足している表現を問いかける。